

Japan Space Phenomena Society
(J. S. P. S.)
c/o Shinichirō Namiki
5-2, Kamiyama-Chō,
Shibuya-ku, Tokyo
JAPAN ZIP 150

INVESTIGATIVE SOCIETY
OF THE UNIVERSE & EX
CIVILIZATION (I.

KERKIRS 140 STR. - ATH

Air Mail

© Ep.E.N.Zw

Printed Matter

JSPS's

Vol.10-2

whole NO.25

Summer & Autumn Issue, 1985.

UFO information

山形県酒田市で...

怪音を放つUFO出現!!

長時間滞空、パトカーも出動す!!!

並木 伸一郎

UFOの目撃継続時間は通常、数秒から数分間というきわめて短時間のうちに終わることが多いが、ときとして長時間に及ぶケースが発生することがある。

ちなみに日本におけるUFO目撃継続時間の最長記録は、小生の手元にあるデータの中で聞いている1982年9月8日山形県尾花沢市で起こった約4時間というケースがある。

ところが今年の4月、同じ山形県でこれをはるかにしのぐUFO目撃事件が発生したのである。

田園地帯に響きわたるナゾの金属音

4月9日夜。山形県酒田市大字千代田の田園地帯は、かつてない濃霧につつまれた。事件はその最中、奇怪な金属音と共に始まったのである。

午後7時すぎのことだ。同地で農業を営む土門源弥さん(45歳)は、いずともなく聞こえてくる金属音が気になって外に出てみた。

「すごい霧だ、

外に一步出た源弥さんは思わず目を見張った。あたりは異常とも思える濃い霧が低く垂れてこめていたからだ。いまだかつてこんな濃い霧を源弥さんは体

験したことがなかった。

「おいっ、修、ちょっと来てみるろー。」

金属音の正体をすぐにつかみかねた彼は長男の修君(17歳)を呼んだ。

父親に呼ばれるままに外に出た彼は音のする方向に目をやった。すると東の方から点滅するオレンジ色の光体が、まるで流れ星のようにスーッと移動してくるのを見つけた。光体はみるまに西に移動していき、そこで南へ約90度の鋭角ターンをした後、空中に滞空したのである。

濃霧のため、周囲の視界は悪かったが、上空は晴天で星がキラめいていた。2人の目は滞空する不思議な光体にくぎづけになった。光体は滞空している位置を中心に微妙に上下、左右に振動している。通常の飛行機やヘリコプターの類ではなかった。

「珍らしい物体だ、UFOじゃないか?、2人はどちらともなくつぶやいた。30分くらい見ていただろうか。物体はまだ見えていたが、とりあえず家にもどることにした。金属音はその後ずっと聞こえ続けていた。

家にもどってはみたものの、音に敏感な源弥さんはどうしてもその音が気になって落ちつかなかった。